【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第３区分
【発行日】平成30年12月27日(2018.12.27)

【公開番号】特開2017-129326(P2017-129326A)
【公開日】平成29年7月27日(2017.7.27)
【年通号数】公開・登録公報2017-028
【出願番号】特願2016-9899(P2016-9899)
【国際特許分類】
*Ｆ２５Ｂ　1/00　(2006.01)*
*Ｆ２８Ｄ　20/00　(2006.01)*
*Ｆ２５Ｂ　39/02　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｆ２５Ｂ　1/00　３２１Ｃ
Ｆ２８Ｄ　20/00　Ｂ
Ｆ２５Ｂ　39/02　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成30年11月13日(2018.11.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
冷媒貯蔵容器(15)の左右両側壁(15a)外面に、それぞれ上下方向に一定の流路長さを有するとともに上下両端が開口し、かつ凝縮水を上方から下方に流して下端開口から排水する複数の凝縮水排水溝(21)が通風方向に間隔をおいて形成されている。各凝縮水排水溝(21)は、冷媒貯蔵容器(15)の左右両側壁(15a)に設けられて外方に膨出した２つの排水溝用凸部(22)の間に形成されており、１つの凝縮水排水溝(21)を形成する２つの排水溝用凸部(22)のうち少なくともいずれか一方の排水溝用凸部(22)の長さは、冷媒貯蔵容器(15)の通風方向の幅よりも長くなっている。各冷媒貯蔵容器(15)の左右両側壁(15a)のすべての排水溝用凸部(22)の膨出高さは等しくなっており、すべての排水溝用凸部(22)の膨出端壁は同一垂直面上に位置している。また、排水溝用凸部(22)における第１間隙(14A)を形成する左右両管組(13)を構成する２つの冷媒流通管(12)の通風方向の範囲内に位置する部分の膨出端壁が、冷媒流通管(12)に接触した状態でろう付されている。なお、隣り合う２つの凝縮水排水溝(21)は、両凝縮水排水溝(21)間に位置する排水溝用凸部(22)を共有している。左側壁(15a)の凝縮水排水溝(21)および排水溝用凸部(22)と、右側壁(15a)の凝縮水排水溝(21)および排水溝用凸部(22)とは、全体に重複しないように、同一水平面内において通風方向にずれて設けられている。これに代えて、左側壁(15a)の凝縮水排水溝(21)および排水溝用凸部(22)と、右側壁(15a)の凝縮水排水溝(21)および排水溝用凸部(22)とが、冷媒貯蔵容器(15)の左右方向の中心を通る垂直面を対称中心として面対称となるように設けられ、全体として重複していてもよい。なお、凝縮水排水溝(21)内を微量の空気も流れる。